



NTTOBSV 会会報 No. 15

2010年3月22日(火)

Home page : <http://sv.nttob.org/>

e-mail : sv@info.nttob.org

目次

◆NTTOBSV会の現状及び最近の動向

事務局長 加藤 隆氏

◆SV帰国歓迎昼食会開催される

佐藤 順氏、ブータンから帰国

◆NTTOBSV会今後活動の進め方について

報道部長 村上勝臣氏

◆本会入会者リレー寄稿 アフリカへ再び

JOCVOB 山下満男氏

◆現シニアボランティア活動報告

バヌアツからの報告 江上俊一郎氏 (バヌアツ)

NTTOBSV会の現状

事務局長 加藤 隆

2008年8月21日に北京オリンピックで日本のソフトボールチームが金メダルを獲得した快挙にあやかってスタートしたNTTOBSV会は、皆様のご支援で一步ずつですが着実に成長をいたしております。設立1年半が経過しましたので、その現状を紹介いたします。

1. 体制

特別顧問に宮村智氏をお迎えし、大局的立場からアドバイスや支援をいただいております。氏はNTT持株会社におられ、その後在ケニア日本大使をつとめられ海外のボランティア活動にも造詣が深く、現在韓国系SBJ (Shinhan Bank Japan) 銀行の社長です。

顧問はJICAやNTTの幹部の方5名で、大局的立場から具体的なアドバイスをいただいております。

幹事はSV経験者およびSVとして活躍中の方12名です。内4名がメキシコ・バヌアツ・カンボジャ及びトンガで活躍しております。最近1名ブータンから帰国しました。

会員はSVに関心をもっているいわばSV候補者で44名です。その内21名がNTTの現職社員で、内16名が青年海外協力隊(JOCV)のOB・OGです。またNTT以外の

OBも入会されております。

以上入会者は62名ですが、そのほかアドバイスや支援をいただく100名を超える方に応援団をお願いいたしております。

2. 活動内容

活動は「SVに関心をお持ちの方へ情報を提供し、SVへの応募を勧める」と、「活躍中SVへのサポート」です。具体的には次の方法に依ります。

(1) ホームページ (HP) 開設 <http://sv.nttob.org/>

活動の中でHPの位置付けは大きいものがあります。内容はNTT社長・特別顧問・顧問からの挨拶に始まり、SV体験記・活躍中SVのボログ・ニュース等々盛り沢山です。時に派遣中のSVには石井孝顧問提供の週間Japan IT Digestが有効です。

このHPは石井氏の発案で、山崎義行広報部長が作成・維持し、加藤が編集しております。

(2) 会報発行

今回が15号で、1～2ヵ月毎に発行しております。内容は機に応じた特別顧問や顧問の挨拶、SV活動報告、JICA応募説明会開催などのニュースのほか、最近はリレー寄稿を始めました。編集・発行は村上勝臣報道部長と加藤が担当しております。

(3) その他

SV派遣激励会や帰国歓迎会をその都度開催しております。またNTT JOCV 新隊員派遣激励会にも参加して交流をはかっております。

更に広報活動として、当会の記事をJICA発行のクロスロード誌やボランティアニュース紙で取り上げていただき、またNTTOB関係の会合等で紹介しております。

3、最近の動向

特徴的なことは先にも述べましたが会員にNTT現職の方が多く、これはうれしいサプライズです。それでNTT JOCVとの交流がひとつの方向です。またSV応募案件が多様化しておりますので、応募なさる方にご自分の専門を基にして、幅広い要請案件に挑戦されることを勧めることです。

更に最近わが国ICT国際競争力強化の必要性が叫ばれているのに呼応して、他団体等とタイアップし、当会入会者を含め海外で活躍できる人材の育成に寄与しようとする動きがあります。去る2月25日に開催されたブータンから帰国した佐藤順氏の歓迎会の席上でこの議論が盛り上がり、皆さんの暑い思いが感じられました。この動きを大切にいたしたいと思っております。

佐藤順氏帰国歓迎昼食会の開催

JICA派遣SVとして2年間、ブータンで電気通信関係技術支援を終えて帰国した佐藤順氏の歓迎昼食会が、2月25日JR信濃町駅ビル内レストラン「ジョン万次郎」で開催されました。

石井孝顧問、加藤事務局長、佐藤順氏他5名合計8名が出席しました。春風の吹く暖かい中で、佐藤順さんから、ブータンの置かれた地域の微妙な政治の舵取りについて紹介がありました。

また、通信業界の海外活躍を期待する意見がでました。今後の日本通信業界の海外活動に関して活性化を希望する。そのため、SV経験者などのNTTOBが経験を生かして通信業界の海外活動のサポートを積極的にやるための意見交換をしました。具体的な内容は次の項に纏めました。



NTTOBSV会、今後の進め方について

報道部長 村上勝臣

2010, 02, 25 JR 信濃町駅ビル、ジョン万次郎レストランで開催された、佐藤順さん帰国歓迎会の昼食会の席で以下の内容について意見交換を行いました。

1. 日本のODAの実施状況の現状について

出席者6名の意見として、日本が現在実施している途上国に対するODAの現状は他のアジア支援国中国、韓国と比べてアクション時期の遅延において格段に差をつけられている。SVを経験したものはその現実を如実に経験している。

2. 現状の打開に対する基本的姿勢

現実の日本的ODAを含む決済期間の短縮、アクションの早期着工、およびアクションの方法についてOBの利点を生かして打開する方法を検討することにした。OBの利益に固執しない立場を生かす。つまりプロジェクトに存在する労務費を原価に抑えることをメリットとしてODAの決済期間歯車をアクセルする試みを実施したい。

3. OBがリードするメリット

中国、韓国の途上国に対するODAの実態をみるとオール中国、オール韓国の即断即決でアジア、アフリカ諸国で実施し成果を挙げ援助している国からも相当の評価を得ている。

日本の場合は、欧米の自由競争システムの徹底が進んでいるから、ODAのアンタイド方式に縛られていることに見られるように現状打破は難しい。従って通信事業のODAに関して現状をみるとある企業がリーダーシップをとって通信事業のODAに関して、中国、韓国に対抗してスチームを組むことは現状、不可能に近い。

そうした現状において、NTTOBは立場がフリー、無報酬を原理とすることを考慮すると、NTT、KDDI、などのサービスプロバイダーの立場とは一線を隔すことができるから、通信業界全体を網羅したオールジャパンのODA体制を組むことが可能であろう。

4. 日本政府の動き

従来日本のODAは外務省、JICAの計画実施体制で勤めてきているが、いろいろな動きがあることも事実で、総務省は独自にe政府実現などの立場で途上国に対して支援して行くという動きもある。こうした情報をキャッチし、NTT海外業務経験者がイニシアチブを発揮して活動の糸口を掴みそれをNTTの国際事業へ結びつけることが我々のファイナルゴールである。

5. 当面の具体的アクション

以上の計画を実現するための具体的アクションは、人材のリストアップである。これから求められる途上国の通信部門に対する支援要請はe政府実現に象徴されるように、ハードウェア、ソフトウェア両面にわたる電気通信サービスの構築である。今後は、交換、伝送などを網羅したネットワークエンジニアリングがODA通信事業に求められる。

本NTT OBSV会としては数多存在するOBをそれぞれのノウハウを持つ人々のリストを作成することから手がけることにする。指し向きその担当を加藤隆事務局長に依頼する。

本会入会者リレー寄稿 第3回 アフリカへ再び

2010年 2月 JOCV ケニアOB 山下 満男

NTT OB SV会の広報担当をしておられる村上勝臣氏はタイのTT&Tプロジェクトでご一緒した仲間ですが、その村上氏とのメールのやり取りをご覧になった加藤事務局長から依頼があり、標記のテーマで私の体験や今に至る思いを綴ってみることにしました。

ことの始まり

私は3回目の成人式を迎えた昨年、5年間お世話になった(財)海外通信放送コンサルティング協力(JTEC)を辞めITのプロフェッショナルを育成する大学院に入学し、現在学生をしています。

学生はIBMやYahoo、NTT、各企業の情報部門に勤務している30~40台の中堅どころの社会人が大部分です。その中で、私は年齢では彼らよりもはるかに抜きんできた存在ですが、旧世代のCPUと揮発性が増したメモリーを備えた頭では、学業についてはついて行くのが大変で悪戦苦闘しています。CIO、プロジェクトマネジメント、ネットワーク、セキュリティ、データベースを中心に学んでいますが、1週間に5日間通学し、この1年間で2年分の単位を既に取得しました。

何故このような状況に成ったのかと言うと、その理由は非常に単純です。元気な内にもう一度アフリカに行こうと思いついたからです。20代の後半、私は青年海外協力隊員として、2年間アフリカのケニアで過ごしました。「アフリカに来た者は、もう一度アフリカに戻る」との話を聞いた時は「そんなバカな」と聞き流していましたが、どうやら本当のようです。実はケニアから帰国して20年後、ケニアを3週間程訪問した事があり、アフリカ熱も少しは収まったかなと、考えていましたが、マラリアと同じで一度罹ると一生続くようです。



モンバサ電話局バレー部



モンバサ電話局の同僚

九州での国際活動

ケニアの協力隊から九州の職場に戻った私は、仲間と一緒に多くのNTT社員を青年海外協力隊員に送り出しました。しかし、帰国した協力隊員OBの中には、一度海外で自由に活動する事を知ってしまった為、職場で悶々とした日々を過ごす者も出てきました。

公社から民営化されたNTTは従来では考えられないような活動もするようになってきました。当時、北九州市は地域浮揚施策として国際化を掲げ、国際協力事業団（JICA）の国際研修センタ誘致に取り組む等燃えていました。NTT 北九州もその活動に協力するため、1987年「国際研修のコースを開設するように」との任命を私は受けました。私は九州各地から協力隊員OBをNTT 北九州に集め、彼らと協力して通信の国際研修受け入れ体制を3年かけて確立しました。それが、今ではNTTの中で最大の国際研修受け入れ機関となっている事は感慨深いものがあります。NTT 北九州に集まってきた協力隊員OBはその後、NTTI等、海外で活躍するようになりました。



NTT 北九州国際研修第1期生



JICA 北九州研修センタにて

国際活動への参加

中央研修センタの国際（コロンボ）研修を担当していた私に、協力隊員OBが訪ねて来ました。「今度、NTT本体が初の大規模な海外プロジェクトをタイ国で行う事になった。については、タイ国の研修生を受け入れて欲しい」との話でした。二つ返事で研修生を受け入れ、研修が終わった時、「タイ国で研修を担当しないか？」との話がありました。これが、TT&

Tプロジェクトであり、私がNTTの国際プロジェクトに関わる始まりでした。1993年から4年半、TT&Tプロジェクトに従事し、その後、シンガポールのスターハブ・プロジェクト（1年間）、スリランカ・プロジェクト（3年間）等NTTの国際活動に従事出来た事は非常に幸せな事だと思っています。



紛争で破壊され、通信設備が全て無くなった Paynesville 電話局に住む難民の子供たち(リベリア)



研修生と15年ぶりの再会 サモアテレコム CEO 夫妻 (サモア)

また、北九州、中央研修センターの6年間で受け入れた海外研修生は55カ国、約300名になり、訪問した各国で彼らと再会することも大きな喜びとなっています。

6年前、(財)海外通信放送コンサルティング協力(JTEC)に出向し、主にアジア・アフリカにおける政府開発援助の案件形成の調査活動等に従事してきました。この間、情報通信技術の発展とアジア・アフリカで求められている技術や知識、そして自分の実力や知識の無さを痛感しました。この事が、どうせアフリカに行くなら、役に立つ技術や知識を少しは身につけたいという思いとなり、老骨に鞭打って学校に行っている次第です。

当初は働きながら、学校に行く計画でしたが、シラバスを見ながら、受講計画を立てている時、学ぶべき事があまりにも多い事に気づき、且つ、働いていると海外出張があるため、どちらも中途半端になる恐れが高いと考え、学生に専念する事にしました。

今年が2年目です。この大学院の特徴は修士論文に代わり、PBL(Project Base Learning)を行う事です。テーマを決め、担当教授の下に5~6人が一グループになり、協同(プロジェクトベース)で研究を進めていきます。卒業まであと1年間、若い同級生と一緒に楽しみながら学び、アフリカを目指したいと考えています。

10年程前、スリランカにいる時HP「アーユーボーワン」を作成していましたが、その中にスリランカの思い出等を記しています

URL : <http://ayubowan.hp.infoseek.co.jp/index.html>



同級生と一杯(後列中央は酒森教授)

現地たより

バヌアツからの報告

20年4次隊SV(2009.3-2011.3) 派遣先:バヌアツテレビラジオ放送局 指導科目:放送機器保守
2010年2月25日 江上俊一郎

1 昨年末には信濃町駅のレストランでバヌアツへ行かれた横田さんと一緒に壮行会をやっていたいただきありがとうございました。横田さんは年があけてすぐバヌアツへ発たれましたが私は3月中旬まで駒ヶ根で派遣前訓練を受け、3月末にバヌアツへ来ました。さらに約1か月現地での訓練を受け、4月末から派遣先の Vanuatu Broadcasting and Television Corporation (VBTC) で働いています。

1. バヌアツについて

バヌアツは南太平洋の独立国で1980年に独立するまでは英国とフランスが共同統治していました。人口は24万人、その90%以上がメラネシア人です。第2次世界大戦のとき日本軍はすぐにオーストラリア領のラバウルを占領して基地をつくりました。バヌアツは米軍がそれに対抗して基地を作ったところです。日本軍はさらにガダルカナル島に飛行場をつくりましたがすぐに米軍に奪取され、その奪回に多数の戦死者を出して撤退したことは良く知られているところです。米軍はバヌアツの飛行場から600kmを飛んでガダルカナルを攻撃しました。バヌアツの首都ポートビラの空港はバウワーフィールド国際空港と呼ばれていますがその名前は飛行場を建設し、ガダルカナルで戦死した米軍パイロットの名前に由来しています。



米軍は多くの飛行場と道路や港湾施設をつくりましたがそれらは現在も役立っています。J. ミッチャーはバヌアツ従軍時の経験をもとに Tales of South Pacific という小説を書きピューリッツァー賞をもらいました。この本がこの国のことを書いた唯一の小説ではないかと思えます。この小説はミュージカル南太平洋として有名になりました。魅惑の宵とかバリハイとかの音楽は私と同世代の人は覚えておられるはずです。ちなみにバリハイとは米軍が来たため女性と子供を避難させた小説中の島の名前で実際はアンパエという島です。1942年2月19日には日本軍はオーストラリアのダーウインを大規模に空襲し、243人が亡くなっています。オーストラリアのABC放送は2月19日にこのことを放送し最近では知らない人が多いがよく知っておかねばならないといっていました。

2. バヌアツテレビラジオ放送局について

自主制作しているのはラジオ1チャンネル(AM, FM, 短波で放送), FM音楽放送1チャンネル, TV放送1チャンネル(1日約5時間。余った時間は仏のTVを放送)です。それ以外に中国の衛星TV放送CCTV9を3ヶ所で中継放送(2ヶ所は故障中)し, ABC, BBC, 中国, 仏の衛星ラジオ放送をFMで再放送しています。C帯のアンテナが4基あり, 複数の衛星からTVやラジオの番組を受信しています。私が関係しているのはオーストラリアが中心となって援助している短波放



中国 CCTV9 受信アンテナ

送の再生計画です。それ以外に放送施設の改善と経営指導に AusAid から元 ABC 放送局長の Mr. マンガイと元フジテレビ局 CEO の Mr. フランシスが派遣されています。

現在の放送局は独立後の 1981 年にオーストラリアの援助で建設されており、ラジオ放送についてはオーストラリアの全面的なサポートが得られるようです。昨日短波送信機の設置が一段落し昨夜から 3.945MHz, 7kW 及び 5.055MHz, 7kW で放送を再開しました。国内短波放送なので電波は電離層に向けて真上に放射します。電波は日本の方向を向いていませんが 2005 年の放送中止までは日本から沢山受信報告が来ていたそうなので日本でもヒンズ語と英語が混じったラジオが放送が聞こえるかもしれません。



短波送信アンテナ(左) 樹木が美しい



カウンターパートの Mr. Warren と日本の援助で実現した遠隔監視制御装置の前で

3. ヒンズ語の教育について

Primary が 8 年, 8 年目の 11 月に Secondary の学校を選択する入学試験を受けます。さらに 10 年目に 11 から 13 年の学校を選択する入学試験があります。これらの試験で良い成績をとらないと良い学校へ進めません。驚くのは学校ごとの合格者が 1 番から順に最後まで試験の点数順にローカル新聞に載ることです。また卒業するときも成績順に 1 番から最後まで順番が新聞に載ります。1 番で卒業する生徒は沢山賞品をもらい、数学とか物理が 1 番でも賞品がもらえるそうです。放送局のテクニシャンによるとこれらの試験でドロップアウトしないように皆必死に勉強するといいます。この辺が行政, 立法, 司法などの公共機関が 100% ヒンズ人で運営されている理由かもしれません。

4. 英語について

ヒンズ語の公用語はヒンズ語ですがヒンズ人は皆英語がうまくフランス語も少しできます。私の英語の発音はひどいらしく、2 度言わないと通じません。私が英語を 8 年間習ったというと同情の眼で見られます。送信機の設置でニューズランド放送のエンジニア、米国から来た短波送信機エンジニア、放送局のヒンズ人テクニシャンと一緒に仕事をします。ヒンズ人のテクニシャンとニューズランド及び米国のエンジニアは英語で自由に会話していますが私には彼らの会話の内容を理解できません。BBC と CNN しか TV は見ず、ヒアリングを鍛えてきたつもりですが普通の会話を聞き取ることは未だに不可能です。ヒンズ人が英語で米国人やオーストラリア人と自由にコミュニケーションできるのは彼らが英語で初等教育を受けているからです。英語を習うのではなく英語で教育を受けるということが英語がうまくなる秘訣であることがヒンズでわかりました。日本の大学でもあまり面白くない英語の授業はやめてそのかわりに教養科目をすべて英語で教えるとかすれば学生も英語の力がつき 1 石 2 鳥ではないでしょうか。



ニューズランド放送エンジニア Steve (左) とニューヨークから来た送信機エンジニア Jamy

5. 植えれば育つ

今は真夏で昼間は強烈な太陽が真上から照ってきます。しかし夜になると必ずといって良いほど猛烈な雨が短時間降ります。夜の雨は植物に水遣りをしているのに等しく昼間の強烈な太陽と相俟って植物が元気に成長できる状況にあります。巨大な樹木が青々とした葉を風にそよがせています。パプアでは何でも植えれば自然に育つといわれています。畑のことを「ガーデン」といいますが主食のいもやバナナなどがガーデンに植えれば手入れをしなくとも自然に育つということです。高さが10m以上にもなる巨大なパンの木にはおびただしい実がなります。今はアボガドが大量の実をつけています。働かなくとも食料は必要以上に豊富なので人はおだやかでパプアの人は一見こわそうに見えても実は気のいい人ばかりです。オーストラリアから多いときには週2,3回クルーズシップが来ますがオーストラリア人にとってこのような乾燥しない気候は魅力あるのではないかと思います。



マーケットで売っているココナツとバナナ



パンの木の实,おいしい

6. 生活について

今は真夏ですが海に囲まれているので夜間の室温は28~29度以上にはならずファンだけで過ごせます。5月から11月は冬で気温が下がり雨も少なく快適に過ごせます。ほぼ1年を過ごして南の島の気候も意外と快適だということがわかりました。果物が豊富で季節ごとにマーケットに種々の果物が出てきます。その半分位は名前も食べ方もわかりません。バナナとパイナップルは自然に熟れているので日本にないおいしさがあります。良く食べているのは1個20円で売っているパッションフルーツで甘酸っぱいなんともいえないおいしさがあります。不思議な果物としかいいようがありません。パンプケムスというグレープフルーツに似たおいしい果物は普通の家の庭で沢山実をつけています。昨日パンプケムスを店で買った店の子にplant seedsとからかわれました。種を植えれば買う必要はないという忠告です。この島ではココナツのプランテーションの囲いの中で牛が飼われています。飼料をやらなくとも自然に育つので経費がかからず牛肉の価格は日本の1/10です。穀物飼料をやらないので脂肪が少なくすき焼きには向いていませんがステーキには向いておりオガニックビーフという名前で輸出されています。私はこの脂肪分の少ない牛肉を食べたおかげで一時帰国時の健康診断では数10年来要注意であった高脂血症の項はすべてOKになりました。最初はいろいろ大変でしたが1年に近くなると派遣先の人にも慣れ、何とか最後までやれそうな気がしてきました。あと1年仕事と同時に南の島を楽しんで帰るつもりです。 e-mail:egami@ieee.org



オーストラリアのクルーズシップとピラ港に寄港しているヨット



パッションフルーツ



エラコルアイランドへ渡る船着場で家内と近くの子供達

編集後記

- ・編集担当しております村上です。先般開催されたバンクーバー冬季オリンピックでは、中国、韓国の活躍が印象的でした。両国の活躍は海外ビジネスの現状を象徴しているようにも写りました、即決断、即実行。今回、当会の活動の進め方として、SV 経験者を含め NTTOB が、日本の情報通信の途上国などへの支援を、ボランティアという立場でサポートしたいものだと話し合いました。相手の要望に、如何にマッチさせ、よりグッドタイミングで実施したいものと。
- ・会員の投稿はバヌアツの江上さんの便り、SV 候補の山下さんからいただきました。次回はカンボジアで活躍している須山さんの「プノンペン便り」を掲載したいと考えております。

総編集長：NTTOBSV 事務局長 加藤隆

編集長：NTTOBSV 村上勝臣

発行：NTTOBSV 会 (kato2415@jasmine.ocn.ne.jp)